



活動場所

新ダイビル「堂島の杜」ほか大阪・中之島周辺に所在する当社物件（ダイビル本館、土佐堀ダイビル、中之島ダイビル）の緑地

活動目的

生物多様性に配慮した環境保全

活動内容

「新ダイビル 堂島の杜」は、（旧）新ダイビル屋上樹苑の精神を受け継ぎ「人だけでなく生物にとってもやさしい森」をコンセプトとして、旧ビルの屋上樹苑で育てた樹木の一部を仮植地で養生したうえで新ビルに移植したほか、在来種を中心とした樹木を用いて旧ビルと同じ約1,000坪の緑地を整備しました。2015年3月の完成以降、定期巡回で植栽の状況を確認し、課題があれば設計者・事業者で話し合い対応する体制を継続しております。

PRしたいポイント

「新ダイビル 堂島の杜」は、前述の取り組みにより、生態系への貢献を評価する「JHEP認証」でも西日本初となる最高ランク「AAA」評価を取得しています。

活動効果、今後の展開 等

「新ダイビル 堂島の杜」による生態系への貢献度を具体的に把握するため外部機関による生物モニタリング調査を行った結果、堂島の杜の中で一定の食物連鎖が成立していることが確認されました。鳥類・昆虫類にとって、こうした生息環境は都市部では貴重で、生態系への貢献度は高いと評価されました。

【「新ダイビル 堂島の杜」生物モニタリング調査結果】

■ 調査実施期間

- ・ 第1回 2016年4月～2017年3月
- ・ 第2回 2020年4月～2021年3月

■ 現地調査による確認種

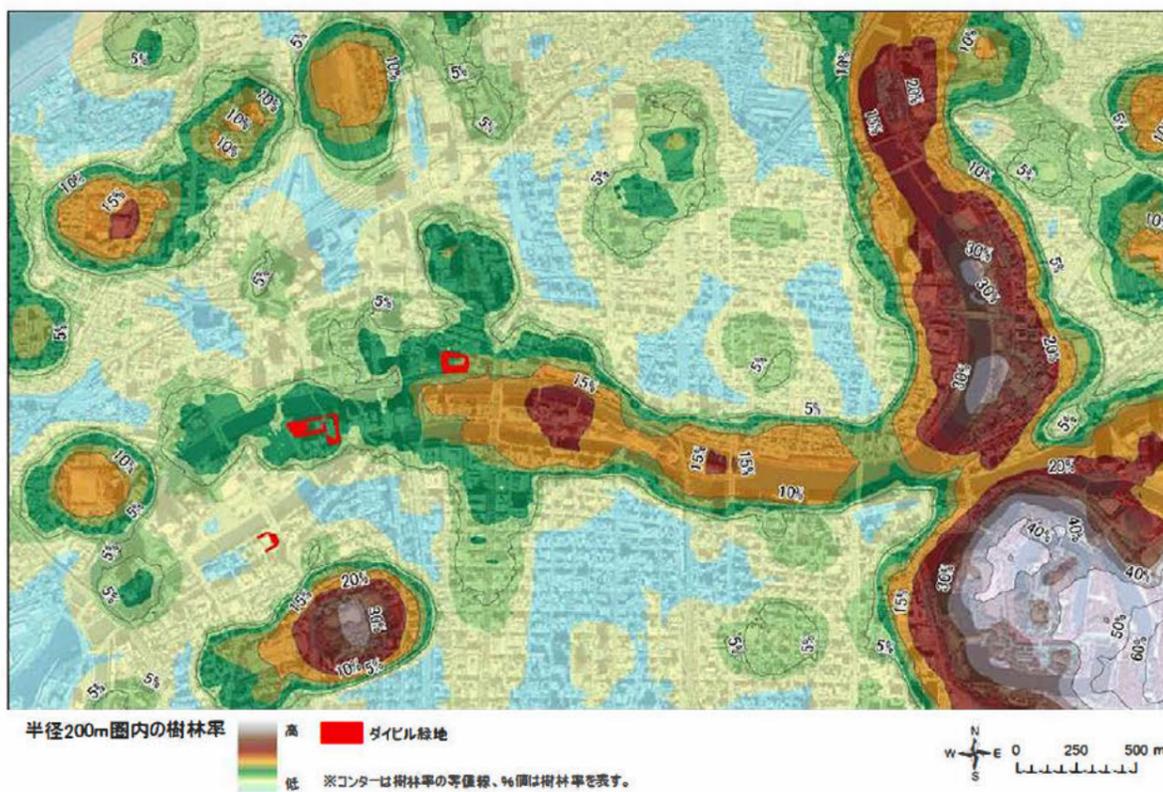
- ・ 鳥類（第1回 15種、第2回 18種）：シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、キジバト、メジロなど
- ・ 昆虫類（第1回 54種、第2回 68種）：ハラビロカマキリ、オオシオカラトンボ、アオスジアゲハなど

[堂島の杜の生態系ピラミッドのイメージ（写真は全て現地にて撮影）]

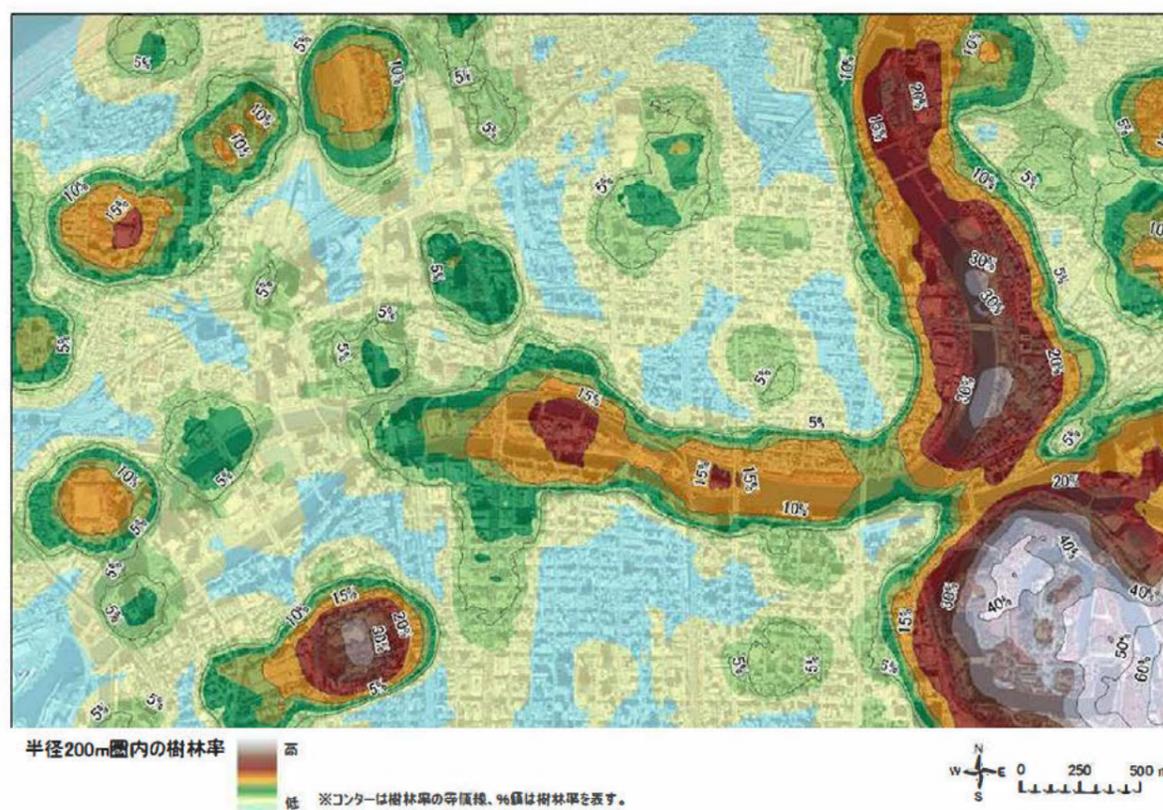


新ダイビルの他にも、大阪・中之島周辺に所在する当社物件「ダイビル本館」「中之島ダイビル」および「土佐堀ダイビル」には、いずれもビル敷地内に緑地を整備しています。シジュウカラのような都市環境に適応した樹林性鳥類は、都市内に飛び石状に点在する緑地を効率よく利用して生活することが知られていることから、これらの当社緑地がある場合とない場合を半径200m圏内の樹林率を用いて比較した結果、分断されていた緑地ネットワークを当社ビルの緑地が繋げる役割を果たし、鳥類の生態系活性化に貢献していることが確認されました。

[半径200m圏内の樹林率比較（現状）]



[半径200m圏内の樹林率比較（ダイビル緑地がない場合）]



当該緑地については今後も、生態系への配慮の観点を重視した管理運用を継続します。

ダイビル株式会社

<https://www.daibiru.co.jp/sustainability/#section3>